

アグアスだより

2013年12月号

“みそあじ”のススメ

学校で、子どもたちはときとして落ち着きをなくすことがあります。大きな行事をやり遂げた後や、教師が多忙で子どもたちと関わりが少なくなるようなときです。そうしたときに、先生方に必ずお願いすることがあります。それが「みだしなみ・掃除・あいさつ・時間を守る」の奨励です。これを「みそあじ」と呼んで、子どもだけでなく教師にも率先垂範してもらっています。子どもたちに落ち着きがなくなると、不思議と「みそあじ」もまた乱れていることが多いのです。たとえば、「時間を守る」は、休み時間が終わっても、子どもが外で遊んでいることがあります。ときには、教師まで授業が始まって教室にいないというようなことが起きます。そのようなとき、本校では、教師も子どもも、まず見直すのが「みそあじ」なのです。

本校の合い言葉、「みそあじ」は、実は、ある荒れた中学校を建て直すために、校長が考案した標語です。通常、荒れた生徒への指導は、直接注意することで内面に働きかけます。つまり、[荒れへの指導→内面の変化→行動の改善]をねらっているのです。しかし、その学校では、まず日常の生活規律・生活習慣を正すことから始めたのです。それが「みそあじ」でした。これは単純なようですが、画期的な試みでした。「身だしなみを整える」「清掃活動をする」「あいさつをする」「時間を守る」を奨励することに

よって、荒れた学校はみるみる変化していき、学校は正常化していったといいます。そうだろうと思います。以前から、奉仕活動、清掃活動、ボランティア活動などが、子どもの荒れた状態を改善させることがよく知られていました。

私たち大人で考えてみてもわかります。男性は背広を着れば、気持ちが仕事モードに切りかわり、女性は着物を着れば礼儀や作法が内面から変わります。はき物をそろえることで、折り目正しい気持ちになり、あいさつをすることで、相手との距離を縮め、相手を思いやる気持ちになります。時間を守ることで、相手からの信用をそこなわないようにしようという心構えになります。つまり、日常の行動を正すことにより、内面を変化させているのです。子どもたちも同じではないでしょうか。道徳のように「内面に訴える心の教育」に対して、ちょうど反対の、「形から入る心の教育」といつてもいいかもしれません。

閑話休題。ある県に、ほかの高校を圧倒的に引き離して就職率の高い高校があります。就職難の時代です。他校から垂涎の的になっている高校の校長に、その秘訣を聞くと、「就職に強い子に教育するだけです」という答えが返ってきました。そして、校長は次のように話されました。「就職に強い生徒は、途中で仕事を投げ出しません。人間には能力があり、早くできる、ていねいにできるなど、どうしても差が出ます。しかし、そんなことよりもっと大切なことが

あるのです。それは『あいさつ・整理整頓・時間厳守』なのです。どんなに勉強ができて能力が高くても、この三つのことをおろそかにする生徒は、仕事が長続きできないのです。だから、大きな声で相手の顔を見てあいさつができること、身の回りの整理整頓がきちんとできること、遅刻をせず約束を守れること、これがきちんとできるように3年間で鍛えるのです」。

これを聞いて、やはりそうかと思いました。本校の生活信条も、まさにこの就職に強い生徒を育成する指針とびたり一致します。学校はもちろん、勉強をするところで、学力向上が大きな目的です。それでも、生徒はやがてそれぞれの道を選び社会に出て行きます。そこで求められるのが、やはり「みそあじ」なのです。つまり、「人・こと・物」との関わりを大切にする習慣が、社会に出てから仕事をする上での基礎になるということです。これは就職直前になってから、急に身につくことではありません。小・中学生の時期から習得すべきことです。また、学校だけでできることでもありません。家庭と学校が協力して取り組んでこそ、なし得ることだろうと思います。教師・保護者が、力を合わせて「みそあじ」を大切にしていきたいと思います。子どもたちの輝かしい将来のために。

学校評価「児童生徒」アンケート

平成25年度「児童生徒」の学校評価アンケートの結果がまとまりました。アンケートの18項目中、14項目が90%以上の評価でした。全項目の78%ですからまずまずの結果でしょうか。一方、4項目については、それを下回る結果となりました。その項目

は、「授業でわからないことについて先生に質問しやすい」82%、「私はすぐにくじけたりせず、何でもねばり強く取り組んでいる」77%、「友だちにからかわれたり、意地悪されたり、仲間はずれにされることが(ない)」71%、「私は人の前で発表するのが好きだ」63%の順に低くなっており、82%~63%の評価にとどまりました。

まず緊急対応する必要のある「友だちにからかわれたり、意地悪されたり、仲間はずれにされることが(ある)」(29%)は、低学年に多く、「からかい」「意地悪」「仲間はずれ」を低学年なりの不満の表現ととらえ、指導していく考えです。最も評価の低かった「発表への苦手意識」は全学年に及んでおり、教科、特別活動、道徳、総合など、さまざまな機会をとらえて、発表力を育成していくつもりです。また、「先生に質問しにくい」という声にも真摯に耳を傾け、受容的な指導に心がけるつもりです。子どもの自己評価、「ねばり強くとり組めていない」には、やり遂げた達成感を味わわせること等を通して、持続力や忍耐力育成につなげていく考えです。詳しい児童生徒のアンケート結果は、別表をご覧ください。

12月の学校行事

- 2日(月) 全校朝会、豚井の日
読み聞かせ
- 4日(水) 体育集会
- 9日(月) 全校朝会、個別面談始
メキシコタイム一斉授業
- 11日(水) 個別面談終
- 13日(金) 大掃除、2学期終業式
- 14日(土) 冬季休業始
- 28日(土) 年末年始休業始